

AGU NEWS

青山学院大学

Vol.
20

AGUニュース第20号
[2003年12月~2004年2月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agu-news/>



F棟1階ラウンジ(相模原キャンパス)

第20号記念特集



AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

半田 正夫前学長が語る「改革の4年間」
新しい青学の歴史が始まった4年間
そして改革の志は受け継がれる……。
新大学執行部紹介

AGU TOPIC

青山学院大学大学院法務研究科設置認可される

TOPICS

相模原キャンパス開学式等開催報告
本学にてノーベル賞受賞者2名が講演
前日本銀行総裁 速水 優氏講演会

報告・お知らせ

硬式野球部 東都大学秋季リーグ戦で8季ぶりに優勝
経営学部中川さん 公認会計士2次試験に現役合格

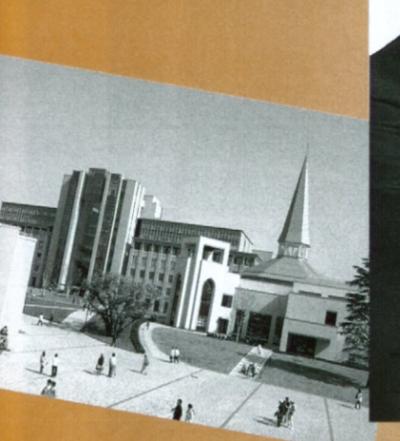
誌上公開講座

vol.20 こころの成長と自己実現
心理療法によってはくまれる個人のポテンシャル

INFORMATION

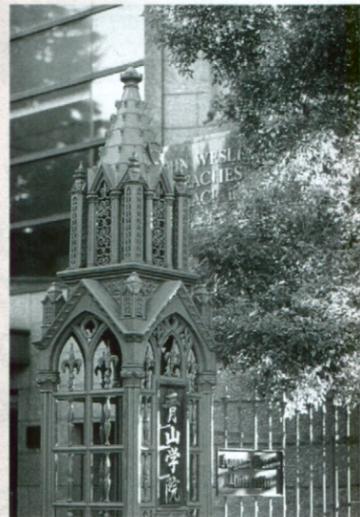
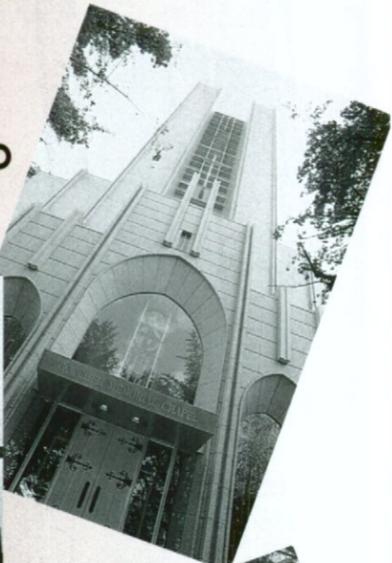
春期休業中の窓口案内
大学・大学院学費改定について

新しい青学の歴史が 始まった4年間。 そして改革の志は 受け継がれる……。



2003年12月、半田正夫教授が学長としての4年間の任期を終え、新たに選出された武藤元昭学長に大学改革の取り組みが引き継がれました。半田教授の学長就任直後にスタートした「AGU NEWS」。この度、第20号の発刊にあたって、創刊号で「今後の大学運営においてもっとも重視していきたいことは「学生を大切に作る大学づくり」です。」と力強く語り、取り組んだ「改革の4年間」を振り返ります。そして、武藤学長からの就任にあたってのメッセージ、および新しい大学執行部の紹介を掲載します。

2004年、新しい改革の歴史がスタートします。



前学長 半田 正夫

半田 正夫前学長が語る「改革の4年間」

私たちの努力以上に、
数々の幸運と多くの人々に支えられた4年間でした。

「大学という所は、実は変化することが苦手なんです」と語る半田正夫教授。1999年12月の就任以来、相模原キャンパス開学をはじめ、社会環境の変化を見すえた数々の改革に取り組んできました。「新しい青学が始まる」……この言葉は単なるスローガンではありません。「改革の4年間」は確実に青山学院大学の歴史に刻まれることになるでしょう。21世紀に輝く「日本一の大学」を目指したその道程について振り返っていただきました。

2000年、新キャンパス計画始動

青山学院大学は、この4年間、21世紀にふさわしい大学であるためのさまざまな改革を進めて、大きな成果を収めることができました。そしてその成功を振り返ると、私たちの努力を越えたところで数々の幸運が重なり合った僥倖を感じざるを得ません。

私がまず出会った幸運は、2000年3月に新日本製鐵株式会社相模原研究所跡地を本学のキャンパス用地として購入できたことです。当初、新キャンパスの候補地探しは難航していたのですが、偶然、研究所移転の話が舞い込み、その後トントン拍子でこの環境・立地ともに恵まれた用地を手に入れることができました。キリスト教を理念とする本学の立場で言えばまさに「神様の思召し」といえる出来事でした。そしてこの神の意志を最大限に有効活用すべく、その後の相模原キャンパスの計画づくりに取りかかり、「文理融合型キャンパス」の利用方針を7月に発表しました。この利用方針はトップダウンによるものではなく、全学部の合意を得て決定されたものです。新キャンパスづくりという大事業にあたって全学一致の体制づくりができるかどうか、私が学長として今後4年間仕事をしていく上での試金石になると思っていましたので、スムーズに合意を得たことはその後の大学改革への大きな自信になりました。

また、2000年度は理工学部学科改組による“情報融合系”3学科がスタートしました。これは私が学長に就任する以前から決定していたことですが、その後の4年間における理工学部のめざましい活躍ぶりの、まさにプロローグとなる出来事でした。理工学部のごうた動きと私の任期が重なったことも、やはりひとつの幸運だったといえるかもしれません。

2000年 青山学院大学における主な出来事

- 3月、新キャンパス校地購入。
- 4月、理工学部学科改組。“情報融合系3学科”として機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科を開設。
- 7月、新キャンパス利用方針を発表。

2001年、新しい青学へのさまざまな萌芽

21世紀が始まった2001年初頭、本学は、理工学部物理学科の秋光純研究室による高温超伝導体[MgB₂]の発見に大いに沸きました。私はこの世界的な発見が、研究環境に恵まれた国立大学ではなく、青山学院大学という私学でなされたことに喜びを感じました。その後、秋光教授に続くように理工学部で数々の発見・発見が相次ぎ、文理融合型の新しい教育研究環境の構築を進める上で、大きな刺激になりました。

2001年は、本学に時代のニーズを見すえた新しい教育研究の場が誕生した年でもありました。まず、文学部教育学科「心理学専修コース」を学科として独立させ、昼夜開講制の「心理学科」を開設。また、同じく4月に国内の

私立大学で初めての専門大学院として「国際マネジメント研究科」を開設したことも、この年のビッグニュースのひとつでしょう。同研究科は、伊藤文雄研究科長のリーダーシップのもと、社会からも高く評価されるビジネススクールへと成長し、現在は専門職大学院として学部卒業生、中堅ビジネスマン、さらには日本を代表する企業の役職者といった、バックグラウンドの異なる人々に対する高度専門職人養成に特化した先進的な教育を展開しています。今後は、2004年度開設の大学院法務研究科(法科大学院)および設置を検討している会計専門職大学院と互いに連携しあいながら、世界的に通用する高度なプロフェッショナル養成のトライアングルを形成する構想が立てられています。

9月には、青山キャンパスに大学開設50周年事業の一環として、「ガウチャー・メモリアル・ホール」が完成しました。現在、キリスト教を基盤とする本学の新しいシンボルとして、日々の礼拝や大学行事はもちろん、コンサートや美術展などのイベントを通して、本学の学生はもちろん、近隣の住民の方々にも、キリスト教文化に触れる場として積極的に活用されています。

2001年 青山学院大学における主な出来事

- 2月、理工学部秋光純研究室が新しい高温超伝導体[MgB₂]発見。
- 4月、文学部心理学科開設。
- 4月、私学初の専門大学院として国際マネジメント研究科開設。
- 7月、緑が丘グラウンド完成。
- 8月、理工学部秋光純研究室が新しい強磁性体[CaB₂C₂]発見。
- 9月、青山キャンパスにガウチャー・メモリアル・ホール完成。

2002年、世界に注目される理工学部

2002年秋、文部科学省「21世紀COEプログラム」の〈化学・材料科学分野〉において、本学「理工学部附置先端技術研究開発センター・理工学研究科」等で行われている研究プロジェクト「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」(拠点リーダー:秋光純教授)が、研究教育拠点として採択されました。この時〈化学・材料科学分野〉で選ばれた私立大学は、青山学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学の3校だけでした。高温超伝導体発見に続く2年連続の快挙によって、理工学部の存在感は一気にクローズアップされたといえるでしょう。「私学でもやればできる」——そうした思いが、改革を進める本学の人々にどれだけ勇気を与えてくれたかわかりません。一般的にはまだ人文・社会科学系のイメージが強い青山学院大学ですが、近年の理工学部の活躍を見ていると、人文・社会科学系学部もうかうかしていられないのではないのでしょうか……。

2002年 青山学院大学における主な出来事

- 9月、本学が2002年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点に選定される。
- 厚木キャンパス、世田谷キャンパスがこの年度をもって、その役割を終える。

半田 正夫前学長が語る「改革の4年間」



キャンパス設置に関する一連のプロジェクトにおいて、主として若手教員間のコミュニケーションが活発になったことが特筆すべきことでしょう。

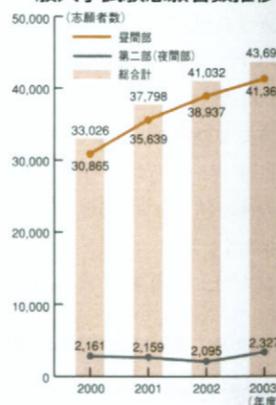
2003年 青山学院大学における主な出来事

- 4月、相模原キャンパス開学。
- 4月、全学共通教育システム「青山スタンダード」始まる。
- 7月、理工学部・理工学研究科改組認可。2004年度より物理学科を「物理・数理学科」に化学科を「化学・生命科学科」に。理工学研究科は1専攻8コースに。
- 11月、青山学院大学大学院法務研究科（法科大学院）設置認可。

4年間を振り返ってもっとうれしかったことは、私の任期中、連続して本学への入学志願者が増加したことです。18歳人口が減少しているなか、この事実だけでもひとつの快挙です。オープンキャンパス参加者も年々増加しており、このことに私を含む教職員がどれだけ勇気づけられてきたか、言葉では表すことができません。大学改革は決して容易な仕事ではありませんでしたが、高校生世代から本学への期待の声援を受け、やりがいを感じて取り組むことができました。また日頃、本学の在学学生、およびご父母の皆様からいただく温かいご支援も、改革の支えになったと感じています。

さて、私の任期は終わりましたが、本学の改革は終わったわけではありません。やるべきことはまだまだたくさんあります。今後は武藤新学長のもと、改革はさらに加速することでしょう。私も期待を込めて見守りたいと思っています。

一般入学試験志願者数推移



2003年、新しい青学を誕生させた3つの“公約”

2003年4月、ついに相模原キャンパス開学の日を迎え、青山・相模原の2キャンパス制による新しい青学の歴史が始まりました。

私は学長就任時に「学生を大切に作る大学」「社会に開かれた大学」、そして「明るい大学」という大学改革に向けた3つの“公約”を述べました。

このうち「学生を大切に作る大学」に関しては、学費コストに見合った中身の濃い教育を提供することをひとつの目標にできました。相模原キャンパス開学と共にスタートした全学共通教育システム「青山スタンダード」は、その答えのひとつです。21世紀の社会で活躍する大学生として「これだけは身につけてほしい」という教養・素養を修得させる、この画期的なプログラムに関しては、今後ともたえずその教育システムと内容を見直ししながら、よりよいものに成長させていかなければならないと思っています。

「社会に開かれた大学」としても相模原キャンパスは大きな役割を果たしていくことでしょう。理工学部を中心に積極的に産官学連携を推進していくとともに、本学も市民のひとりとしての自覚を持ち、地域のみならず力を合わせながら歩んでいくための機会と場所を提供していきます。10月に開催した第1回相模原祭には、中高年の方々を含む多数の地域住民がご来場くださり、本学学生と共にイベントを盛り上げてくださいました。とても感謝しています。

一方、青山キャンパスでは、都心にある地の利を生かして警視庁、東京国税局、日本弁理士会からの要請を受けて、社会人を対象とした特別講座を開講。また、2003年7月より、諸外国の駐日大使を招いて講演を行う「各国大使講演シリーズ」がスタートしました。今後も、こうした大学と社会との接点をより広げていくことによって、学内の教育・研究の活性化を図っていく必要があるでしょう。

最後に「明るい大学」とは、主に学内の風通しの良い組織作りについてです。この4年間に教職員の人事の活性化も進み、学部間の壁もかなり低くなってきたという手応えを感じています。学部間の交流の面では、相模原キ

高校生から評価される新しい“青学”

2003年秋に発行されたリクルート「カレッジマネジメント」誌の大学募集ブランド力調査（調査対象：高校生約50,000人）において、本学が首都圏ランキングの総合力第6位（国公立大を含む）としてランク付けされるなど、再びその力が目立って、評価が高まっています。

同誌に掲載された項目別のランキングを見ると、「校風や雰囲気が良い」「学生生活が楽しめる」はどちらも1位、「キャンパスがきれいでいる」2位、「学習設備や環境が優れている」4位など、学生生活を過ごす環境面での評価が特に高いことがわかります。

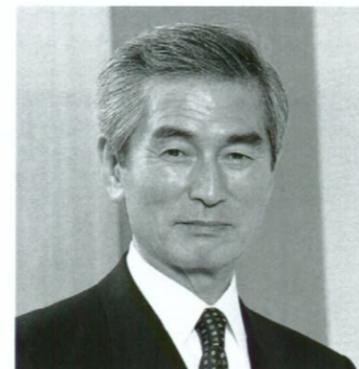
また「社会で役立つ力が身につく」「国際的なセンスが身につく」「学

生の学力が高い」がいずれも4位、「教育内容のレベルが高い」5位と、教育内容についてもコンスタントに高い評価を得ており、「就職に有利である」「卒業後の社会で活躍できる」がいずれも4位と、卒業後の進路に関する期待も高いようです。

半田正夫教授はこの調査結果について次のようにコメントしています。「この調査の対象者が大人ではなく、これから本学を志望校として考える可能性のある高校生だということに大きな意味があると思います。大人のように青山学院大学の伝統や既存のイメージにとらわれず、純粋な目で“現在の青学”を高く評価してくれたのですから」

武藤 元昭学長のもと、新大学執行部スタート

2003年12月、文学部日本文学科武藤元昭教授が、青山学院大学学長に就任致しました。新学長のメッセージとプロフィール、そして新しい大学執行部を紹介します。



新学長 武藤 元昭

青山学院大学は、相模原キャンパスを2003年4月に開学しました。幸いなことに、評判は上々のようです。ただ、真価を問われるのはこれからです。一方で、大学院法務研究科（法科大学院）も2004年4月に発足します。その意味で2004年は本学にとって正念場を迎えることになると言えるでしょう。教職員一体となって学生諸君と向き合い、一層良い大学になるよう皆で努力して行きたいと思っています。

半田先生が学長をされていた4年間は、改革の連続だったと言えます。中でも相模原キャンパス開学は一大事業でした。これを立派に成し遂げ、開学1年目を見届けて退任されるのは、本望ではないかと拝察致します。3月で退職されますが、これからも研究に専念されるとともに、私どもへのアドバイスをいただけるようお願い申し上げます。

2004年に、青山学院は創立130年を迎えます。これを機に、大学も創立の原点に立ち返ってみてはどうか、と考えます。本学は先人の努力によって今日見る如く大きく成長しました。しかし、大きくなればそのふん創立の精神を忘れがちになります。そこでこの際、教職員も学生諸君も、青山学院の一員であることを自覚し、その意味を考え、そこから研究と教育に向かっては如何かと思うのです。

今、大学は個性を求められています。青山学院大学がその個性を特色として社会にアピールするとなれば、上に述べたようなことになるのではないのでしょうか。私は、少人数教育を通してその特色を生かした、謙虚で深い人物を本学から輩出したいと願います。

新大学執行部紹介



学務・学生担当副学長
仙波 憲一

1950（昭和25）年生まれ、青山学院大学大学院経済学研究科博士課程単位取得のため退学。経済学修士。

1984（昭和59）年、本学国際政治経済学部にて就任。学生部副部長（青山キャンパス）を務めた後、2000（平成12）年からは国際政治経済学部国際経済学専攻主任。2002（平成14）年からは大学院国際政治経済研究科国際経済学専攻主任を務め、現在も兼任。

埼玉県戸田市教育委員を兼任。日本経済学会、地域経済学会に所属。



総務・広報担当副学長
魚住 清彦

1942（昭和17）年生まれ、東京大学大学院工学系研究科応用物理専門課程博士課程単位取得後退学。工学博士。

1979（昭和54）年、本学理工学部にて就任。理工学部物理学科主任、大学院理工学研究科物理学専攻主任、情報科学研究センター副所長（世田谷キャンパス）を務めた後、2002（平成14）年からは理工学部長、大学院理工学研究科長を務め、現在も兼任。

応用物理学会、物理学会、日本真空協会、日本材料科学会に所属。



第二部担当学長補佐
杉浦 勢之

1954（昭和29）年生まれ、名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期満期修了退学。経済学修士。

1991（平成3）年、本学経済学部にて就任。学生部副部長（第二部担当）、経済学部第二部経済学科主任を歴任。

社会経済史学会、土地制度史学会、地方金融史研究会に所属。

青山学院大学大学院法務研究科設置認可される

2003年11月27日(木)、文部科学省より青山学院大学大学院法務研究科(法科大学院)の設置認可を正式に受け、現在、2004年4月の開設に向けた準備を行っています。そこで法科大学院設置委員の江泉芳信教授から今後の展望についてお話をうかがいました。



法務研究科専用施設(大学3号館)

少人数教育に適した教室の他、ラウンジ、ローライブラリー(資料室)、自習室などが設置される法務研究科の専用校舎。



法学部
江泉 芳信 教授

法科大学院構想にあたって、私たちは青山学院ならではの教育方針と理念を明確に打ち出し、カリキュラムおよび教育スタッフの構成に特色が出せるよう、地道な努力を重ねてきました。今回、設置申請の過程においてそうした本学の独自性が高く評価され、一切の留保もなく認可を受けたことにこの上ない喜びを感じます。同時に2004年4月の開設を目前に控えて、私たちに課せられた大きな責務を痛感しています。

青山学院大学大学院法務研究科の特色

青山学院大学大学院法務研究科(法科大学院)は、キリスト教精神に基づいたスクール・モットー「地の塩、世の光」を具現化し、社会貢献の精神を有し、同時に国際的視野をもった法曹の養成を目指します。

国際的視野といっても、必ずしも海外を舞台にした活躍を目指すということだけを意味しているわけではありません。わが国の社会と法律を国際的な観点から見直すことのできる多角的な視野を身につけさせるということでもあり、これは従来の法曹教育に欠けていた点でもあります。そこで、カリキュラムには、アメリカ人、ドイツ人の実務経験者、研究者による「アメリカ法」「EU法」「ドイツ法」の各授業、海外のロースクールとの契約交渉のシミュレーションを行う「グローバル・クラスルーム」(開設準備中(人数制限あり))、ワシントン大学(セント・ルイス)から教員を招聘する集中講義(2004年度は修了要件単位外科目)など、世界の法律に触れる多くの機会を用意しました。

また、本学法務研究科では裁判官、検事、弁護士の法曹三者はもちろん、近年、その重要性がますます高まる企業の法務担当者、また政治家や行政組織の一員として立法に携わる人材など、幅広い活躍の場を想定していることも特色です。そのため、実務家として欠かせない事例を

学べる「現代法実務」や「立法学」を開講。法務研究科に先駆けて設置された国際マネジメント研究科の関連科目を履修することもできます。授業のテキストも既成の教科書ではなく、本学独自に作成し、つねに最新の資料・情報を取り入れた講義を行っています。

さらに、キリスト教精神を理念とする本学では、司法制度改革の大きな柱のひとつでもある「法曹倫理」を重視。弱者への温かい眼差しを持つ法律のエキスパートの育成に、すべての教員が全力を尽くしてあたっていく所存です。

多様な価値観を持つ人々が集うアカデミックな知的空間

教育とは、結局、人と人との関係を通して成り立つものです。多くの人々とのふれあいの中で多様な価値観や生き方を知ることは、これからの法曹にとって大きな意味を持つことになるでしょう。本学大学院法務研究科は、1学年60人の少人数教育のメリットを生かし、院生同士、あるいは院生と教員が自由に交わす対話とコミュニケーションをベースにした教育を行っています。そこで期待しているのは、さまざまなバックグラウンド、および社会経験を持つ学生の存在です。入試においても「多様性」確保の観点から、特に法学未修者コースではその人の経験や人間性を重視した選考を行うとともに、社会人入試を重視しています。将来的には卒業生も加わって、法科大学院が明確な目的意識と高い理想を持つ人々が集うアカデミックな場となることを期待しています。修了後も本学を対話と議論の場として、いつでも気軽に訪れ、積極的に利用してほしいと思っています。また、法曹界をはじめさまざまな分野のゲストを招くなど、院生の人間性の成長を促すプログラムを実施する予定です。

司法試験合格を目指すことは法科大学院としての大きな目的ではありますが、本学大学院法務研究科は決して単なる国家試験予備校にはなるつもりはありません。合格後の将来までも見すえた人間教育＝ロングスパンの法曹教育を展開していきます。

授業科目					
法律基本科目群	公法	統治の基本構造 基本的人権の基礎 法と行政活動 公法総合演習(1) 公法総合演習(2)			
	民法	財産法(1) 財産法(2) 財産法(3) 家族法 民法 民事訴訟法 民法演習 商法演習 民法法融合演習 商事法融合演習 民法特別演習(1) 民法特別演習(2)			
		刑法	刑法 刑法訴訟法 刑事法総合演習(1) 刑事法総合演習(2)		
		実務基礎科目群	法曹倫理 民事実務基礎(要件事実・事実認定論) 刑事実務基礎		
		実務系科目群	ローヤリング エクスターンシップ 模擬裁判(民事・刑事)		
		基礎法・隣接科目群	法哲学 法社会学 法と経済学 立法学 会計学		
		1群	公法特講A(土地利用と公法) 公法特講B(地方自治法) 民事法特講A(保全・執行法) 民事法特講B(倒産処理法) 商事法特講A(有価証券法) 商事法特講B(保険法) 商事法特講C(企業取引法) 刑事法特講A(刑事政策) 刑事法特講B(少年法)		
			2群	非営利組織法 消費者法 環境法 労働法(1) 労働法(2) 経済法(1) 経済法(2) 知的財産法(1) 知的財産法(2) IT企業法務 租税法 現代法実務(交通)	
				3群	国際私法 国際取引法 国際法 国際人権法 国際税法 国際刑事法 国際法務入門 アメリカ法(1) アメリカ法(2) EU法(1) EU法(2) ドイツ法 WTOとビジネス グローバル・クラスルーム科目(予定) ワシントン大学派遣教員関連科目(予定)
					4群

大学院法務研究科専任教員 ※2004年4月就任予定

飯塚 勝 【元判事・弁護士】	民事法特別演習(1) 民事法特別演習(2) 法曹倫理 エクスターンシップ 模擬裁判(民事)
江泉 芳信	国際私法
岡田 良雄 【元大阪高裁長官】	刑事訴訟法 刑事法総合演習(1) 法曹倫理 模擬裁判(刑事)
神長 勲	法と行政活動 公法総合演習(2) 公法特講B(地方自治法)
許 末恵	家族法
関 武志	財産法(1) 財産法(2) 民法演習 民法法融合演習
芹沢 斉	統治の基本構造 基本的人権の基礎 公法総合演習(1) 公法総合演習(2)
高井 康行 【元東京高検検事・弁護士】	刑事法総合演習(2) 法曹倫理 刑事実務基礎
谷原 修身	経済法(1) 経済法(2)
新倉 修	刑法 刑事法総合演習(2) 国際刑事法
松田 政行 【弁護士】	知的財産法(1) 知的財産法(2) IT企業法務
山崎 敏彦	財産法(3) 民法演習 民法法融合演習 民法特別演習(1) 民法特別演習(2)
吉田 直	商法 商法演習 商事法融合演習 法と経済学 商事法特講C(企業取引法)
Lenz, K. F.	EU法(1) EU法(2) ドイツ法
和田 吉弘	民事訴訟法 商事法融合演習 民事実務基礎(要件事実・事実認定論)

※掲載しているCG・写真は設計に基づくイメージです。



模擬法廷室(大学6号館)

最高裁判所を参考に設計された本格的な模擬法廷です。この施設は、多くの子どもや若者に法律を身近に感じてもらうため、法科大学院で使用する以外の時間を、初等部から大学各学部まで青山学院全体の教育でも利用する予定です。



ライブラリー(大学3号館1階)

法律専門書・雑誌等を中心とした書籍・資料を収めた法科大学院の専用図書館です。アメリカのロースクール・在米経験者ら2名のローライブラリアンが常駐し、書籍および資料等の検索だけでなく、院生の勉学支援も行います。



自習室(大学3号館2・3階)

3号館の2フロアの広々としたスペースを利用して設置される個人用キャレルは、院生1人につきひとつが用意され、各キャレルに法令、判例等を検索するためのパソコン端末が設置される予定です。



ラウンジ(大学3号館1階)

3号館の1階には、ガラス張りの明るく広々としたラウンジスペースを設置。昼休みにランチを持ち寄りながら、放課後に心ゆくまで……院生、教員をはじめ誰もが自由に語り合うための場所です。

相模原キャンパス開学式、厳かに行われる



青山学院大学相模原キャンパス開学式

2003年10月11日(土)相模原キャンパスA棟アリーナにおいて、「青山学院大学相模原キャンパス開学式」が執り行われました。当日は曇り空でしたが、キャンパス開学にあたって、温かいご支援を賜った方々、ならびに青山学院関係者など多数の来賓のご臨席をいただきました。式典は東方敬信 大学宗教部長の司式のもと進行し、来賓の安西祐一郎 日本私立大学連盟会長、鳥居泰彦 日本私立学校振興・共済事業団理事長、山内一郎 キリスト教学校教育同盟理事長、木下辰雄 相模原市助役より心温まる祝辞をいただきました。式典後にはC棟ウェスレー・チャペル横のガーデンにて祝賀会が行われ、より一層和んだ雰囲気でご挨拶やお祝いの言葉を多くの方にいただくことができ、本学にとって慶びに満ちた記念すべき一日となりました。今回は当時の学長 半田正夫教授と副学長 西澤宗英教授にメッセージをいただきました。



安西 祐一郎 日本私立大学連盟会長



鳥居 泰彦 日本私立学校振興・共済事業団理事長

祝賀会で挨拶する西澤 宗英教授

「21世紀の大学教育の理想をめざす 文理融合型」キャンパス

2003年4月1日に開学した相模原キャンパスでは、これまで別々のキャンパスで学んでいた理工学部の全学生と人文・社会科学系学部の1・2年生とが学び、今の社会のあらゆる分野で求められている「文理融合型」の人材を養成していきます。そして、文系・理系の学生と教員が、この環境をフルに生かして、互いに意志の疎通を図り、同じ大学に属する者同士としての連帯感を醸成するとともに、考え方の異なる者が活発な情報交換を行うことによって、今後多くの新しい発想や知見が触発されることを期待しています。

開学までのプロセスを通して何よりも印象深く思い起こされるのは、全学一致協力してこの「文理融合型」キャンパスを創り上げたことです。これからも学生、教職員はもちろん、地域に開かれたキャンパスとして地域住民の方々や地元企業とも力を合わせながら、さらなる発展をめざしたいと考えています。

半田 正夫



開放的な雰囲気で行われた祝賀会

第48回神奈川建築コンクールで相模原キャンパスが「優秀賞」受賞

2003年10月28日(火)、相模原キャンパスが、神奈川県と県内12市が共催する第48回神奈川建築コンクールの一般建築物部門で「優秀賞」を受賞しました。このコンクールは、建築文化・技術の向上を図り、魅力あるまちづくりの推進を目的として、1956年から実施されています。今回は2001年6月から2003年5月までに完成した建物が対象となり、応募総数115件(住宅部門:62件、一般建築物部門:53件)の中から、相模原キャンパスを含む22作品が入賞しました。



賞状

開学式を迎え、何よりもまず私共がこのようなキャンパスを与えてくださった神様に感謝いたします。次に開学式にご出席いただいたご来賓の皆様、特にキャンパス設置計画の当初から、地元の最高責任者として多くのご理解とご支援をいただいた小川相模原市長をはじめとする地域の皆様、心からお礼を申し上げます。文字通り官民一体となったご支援があったからこそ、予定通り開学することができたと考えています。そしてキャンパスの設計・建築に当たっていただいた各企業の皆様、青山学院法人本部と管理部の皆様、大学教員・職員の皆様……こうした皆様のご協力とご尽力によって、この素晴らしいキャンパスが完成したということ、私たちは決して忘れてはなりません。最後に、開学以来、学生と教員が円滑に新しいキャンパスでの生活を営むために、日々多大な努力を払ってくださっている相模原キャンパス勤務の教職員の方々に厚くお礼を申し上げます。

西澤 宗英

多くの皆様のご支援とご理解によって相模原キャンパスは創られています

相模原キャンパス開学式までのHistory

- 2000.3 相模原キャンパス校地を購入
3月21日(火)に新日本製鐵株式会社相模原研究所跡地の売買契約を締結。翌22日(水)に、青山キャンパスで用地購入に関する共同記者会見を開催。
- 2000.7 相模原キャンパス利用方針発表
新しいキャンパスが、人文・社会科学系学部と理工学部の学生と教員が利用する「文理融合型キャンパス」となることを、半田正夫学長(当時)が正式発表。また、相模原キャンパスから約3kmの距離にある用地を新しい大学グラウンド「緑が丘グラウンド」として活用されることに決定した。
- 2001.2 実施計画スタート グランドデザイン決定
前年より「新校地基本計画委員会」を中心とするいくつかの検討グループによる、21世紀にふさわしい新キャンパス構築に向けての計画が検討され、基本計画がまとまった。また1月19日(金)には緑が丘グラウンド建設予定地において、開学式を挙行、建設工事がスタートした。
- 2001.7 搬入式
7月25日(水)、相模原キャンパスの搬入式を挙行。同日に相模原キャンパスに先立ち完成した緑が丘グラウンドの献納式も行われた。
- 2001.8 建築工事着工
- 2001.9 キャンパス名称を決定
2000年10月より名称を公募。学生・教職員・卒業生から、600件以上の応募があり、投票の結果「相模原キャンパス」と決定した。
- 2001.10~12 開学に向けたさまざまなイベントを開催
相模原市での記念講演会をはじめ、青山キャンパスでの「高校1・2年生のための新キャンパス説明会」、そして「相模原市と青山学院大学の共生」をテーマにした「青山学院大学フェスティバル in さがみはら」を開催。開学に向けて、地域住民の方々や高校生にアピールした。
- 2002.11 「相模原新キャンパス説明会」開催
11月10日(日)青山キャンパスにおいて「相模原新キャンパス説明会」を開催。新キャンパス概要紹介のほか、建設中のキャンパス風景ビデオ上映、新キャンパス模型とパネルの展示などが行われ、本学に対して意欲の強い熱心な高校生とご父母1,460名が来場した。
- 2003.1 既存キャンパスからの移転開始
厚木キャンパスの記念樹移植、ウェスレー・チャペルのステンドグラス・カリオン、パイオルガンの移設をはじめ、厚木・世田谷キャンパスからの移転作業が開始された。
- 2003.3 相模原キャンパス定礎式・献堂式
3月29日(土)、B棟メディアセンター前において定礎式を挙行。引き続きC棟ウェスレー・チャペルにおいて献堂式が行われた。
- 2003.4 青山学院大学相模原キャンパス開学
青山キャンパスと相模原キャンパスの2キャンパス制としてスタート。新キャンパスは16万平方メートルの敷地に21棟の建物で構成され、人文・社会科学系学部(昼間部)の1・2年生と理工学部・研究所の全学生・教職員あわせて約1万人の通学が開始。
- 2003.10 青山学院大学相模原キャンパス開学式開催

第1回相模原祭 開催報告



青木洋介君(前列中央)と実行委員会スタッフ

2003年10月11日(土)・12日(日)の両日、地域の方々を含め多くの来場者を集め、大盛況だった第1回相模原祭。今回の相模原祭では「エコ」が一つの見所になっていました。「エコトレイ」の使用のほか、前夜祭のキャンドル点火もリサイクルキャンドルを使用。また来場者参加型の企画として行った廃油を使ったキャンドル作りは、子どもたちから大人気を集めていました。そのほか、学内参加団体の中からもっとも環境に配慮した企画を選出する「エコ賞」、環境保全を目的としたチャリティークッシュ「Eco-lot」なども実施。「Eco-lot」は、豪華賞品のおかげで両日とも完売!収益金は「かながわトラストみどり基金」に寄附しました。一から創り上げた第1回相模原祭が、多くの困難を乗り越え、無事成功できたことをとてもうれしく思います。ご協力くださった皆様には心から御礼申し上げますとともに、「第2回」以降も大いに盛り上がりていくことを期待しています。



第1回相模原祭実行委員長 青木洋介・理工学部物理学科3年



相模原祭では環境に配慮した食品トレイ(原材料はアシ・竹・サトウキビのしぼりかすなどで、森林を守る非木材素材で焼却処分しても有毒ガスが発生しない)を使用しました。このトレイの特徴は、土に埋めると土壌還元する(土に戻る)ことで、先日、回収したトレイを相模原キャンパス敷地内に埋めました。



第1回相模原祭/イベント

『りこうがくぶ公開』開催報告

2003年10月11日(土)、「相模原キャンパス開学式」と同時に「りこうがくぶ公開」も開催されました。当日は、広いキャンパス、新装・充実した教育環境を一目見ようと来場者は何と7,000名を超える大盛況。先進的・世界的レベルの「最新のサイエンスとテクノロジーへの誘い」と題し、研究室公開・デモンストレーションなど魅力満載。あちらこちらで歓声をあげる児童、ご父母の質問に得意げに応える大学生・教員のハッスル振りが印象的でした。まず屋外では、今話題の液体窒素自動車の人だかりとなりました。次に、情報科学研究センターでは「パソコン授業体験」を行い、先端技術開発センターと総合研究所プロジェクトでは、「超伝導」「光通信とインターネット」などが注目を集めました。さらに各研究室は、「アッ、電波がみえちゃった」「レーザーで物を見る」「CAD、CAE、CAM、CATとは何だろう」「ゴミ分別ゲーム」「ヒューマノイド・ロボット」など、大賑わいでした。夕刻には、数学教室主催による松本幸夫東京大学教授の特別講演、また父母懇談会が行われ好評でした。写真に見られるように、それぞれ大盛況のうちに終えることができました。

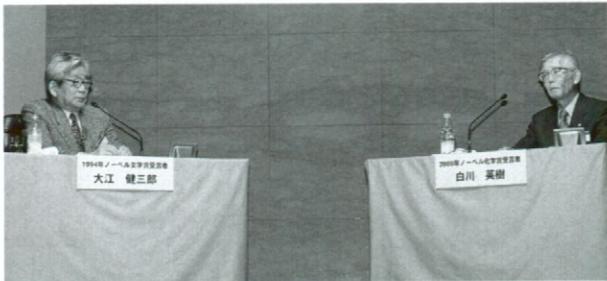
(りこうがくぶ公開委員長 天坂 格郎 記【理工学部経営システム工学科教授】)



report 1

report 2

青山学院創立130周年記念事業 青山キャンパスにてノーベル賞受賞者2名が講演



11月6日(木)、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて、青山学院創立130周年記念事業のひとつとして、ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「21世紀の創造」の教育フォーラム東京(主催:読売新聞社、NHK)が開かれました。

テーマは「何を学ぶかー作家の信条、科学者の思い」で、文学賞受賞者の大江健三郎氏(作家)より「読む表現」、化学賞受賞者の白川英樹氏(筑波大学名誉教授)より「科学者の思い」と題して基調講演をいただき、その後、文系と理系の違いや科学と技術の問題をめぐって対談が行われました。会場は本学大学生、女子短期大学生、高等部生、中等部生の約330人が半分を占め、ガウチャー記念礼拝堂に入りきれない人たちのために、第二・第三会場として総合研究所ビル12階大会議室等教室および相模原キャンパスにも講演の様子が同時中継されました。両氏の対談の後、学院各部からの生徒・学生との質疑応答がありました。

今回、司会を務めた経済学部4年の萬智恵さんと大学の代表として両氏に質問をした4名に話を聞きました。

独創性を目指す文理融合の可能性

現在の大学には、文系と理系との間に大きな壁があると思います。今回のフォーラムでは、その壁を超えて、小説家である大江先生と科学者である白川先生という、分野を異にする2人のノーベル賞受賞者が、双方のつながりを文理融合の必要性という形で解いてくださいました。



経済学部経済学科4年 萬智恵さん(当日司会)

科学技術の発展による大量生産・大量消費の時代を終え、21世紀には専門性だけでなく、幅広い視野に基づいた価値観が求められます。文系の人間には自立した思考力と独自の判断力の裏づけとなる数学的知識を、また理系の人間にはその技術を世の中にどう活かすかといった総合的視野を、それぞれ持つ必要性に迫られているのではないのでしょうか。

その意味で、大学生や今後文理の選択を強いられる中高生による質疑応答が、両先生と同じ壇上で自由に行われたことは大きな意味があったと思います。文系・理系の人間が同じ目線で表現し、互いに補完しあうことが、さまざまな角度からの思考力と、記憶力に頼らない自立した持論を持てる第一歩、それも大きな第一歩であるように感じました。

大江先生は、世界の言葉の声が増えてくるようになる点がノーベル賞のいい点だと話されましたが、教育の場でも同じように、異分野の人間の声が双方に影響し合うように聞こえてくる—そんな環境づくりが、白川先生が指摘された独創性を目指す21世紀の教育の使命なのではないのでしょうか。

【質問者より感想・コメント】

井上まどかさん 理工学部化学科3年

私は白川先生に研究に対する取り組み方、心構えに関する質問をし、先生から「疑問に思ったことは面倒がらず、その都度時間をかけて解決すること」「自分の専門分野以外への興味を広げること」というアドバイスをいただきました。基調講演では、大江先生は文学者らしくユーモアもあり表現力が豊か、白川先生はわかりやすく簡潔という印象でした。文学者と科学者のモノの考え方の違いなどもわかり、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

山崎正穂君 理工学部化学科4年

「これから必要とされる研究分野とは?」という私の質問に「ナノテクノロジー、ライフサイエンスが重要になるだろう。しかし、私としてはそれ以外の新しい分野を見つけてほしい」と答えられた白川先生。事実に基づいた語り口は説得力にあふれ、その穏やかな人柄とともに科学者としてのあり方を学ばせていただきました。また、大江先生の「表現」へのこだわりにも感銘を受け、科学者にも必要な「表現する」「表現を受け取る」能力について考えさせられました。

渡辺真希子さん 文学部フランス文学科4年

ある作家(特にフランスの)が別の作家に与える影響がどのようなものであるかに関心があったので、大江先生に「バスキアルやカミュ、サルトル等の作家から具体的にどのような影響を受けたか」をうかがいました。その答えのなかで「若い時に多くの本を読むべき。そしてその本を何度も読み返すと、そのたびに新しい発見がある」とおっしゃられた言葉が心に残りました。また、ふだん科学者と接する機会がない私は白川先生の講演もたいへん興味深く聞きました。

鈴木佳穂さん 文学部日本文学科4年

大江先生は作品を読む限り、まじめで厳格な印象がありましたが、当日の質問や基調講演では、軽妙なジョークを交えて聞き手を笑わせるなど、とてもユーモアのセンスにあふれた方でした。しかし言葉に関しては厳格な姿勢で受けとめられており、私もひとつひとつの言葉をもっと大切にしていきたいと痛感させられました。白川先生はたいへん穏やかな口調で話され、その姿から品格が漂ってくる方で、私の中にあった「科学者=堅い」というイメージを崩してくれました。



ジョン・ウェスレー生誕300年記念行事 速水 優氏(前日本銀行総裁)記念講演会

1703年イギリスで生まれたメソジスト運動の祖であるジョン・ウェスレーの生誕300年を記念し、今年是世界中で数々の記念行事が行われています。記念行事の一環として、2003年10月21日(火) 青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室において、前日本銀行総裁で、東京女子大学理事長も歴任されている速水 優氏をお迎えし、「明日の日本を考える」と題し、講演会が行われました。学生・教職員、および教関係者約240名が参集し、キリスト者としての生立ちをプロローグに、日本銀行在行中の日本の金融政策、今後の世界の景気変動など、永年の経験からの講演は、聴衆者に感銘を与え、予定時間を超過する程でした。



前日本銀行総裁
速水 優氏

国際マネジメント研究科主催 国際シンポジウム「アジアの経済発展と企業再生」開催

2003年10月31日(金)・11月1日(土)、青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室において、国際シンポジウム「アジアの経済発展と企業再生」(後援: 国際連合大学、日本政策投資銀行、日本経済新聞社)が開催され、のべ百数十名の参加者がありました。



埴 義一氏(日産自動車株式会社相談役名誉会長)をはじめ、ロシア・中国・韓国・シンガポールより多彩なゲストを迎え、以下のプログラムが行われました。

特別講演 「アジアの経済発展と企業再生」

セッションⅠ「コーポレート・ガバナンス改革と企業経営」

セッションⅡ「事業再生と人材育成」

セッションⅢ「アジアの経済発展とアジアMBAの育成」

各セッションとも、基調講演とパネル討論があり、熱のこもった討議や質疑応答がなされました。

国際会議「Human Development in Africa and the Role of Japan」

2003年10月28日(火)、青山学院大学と国際連合大学の主催、外務省後援で「Human Development in Africa and the Role of Japan」と題する国際会議が青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室で開催されました。出席者はラシャド・ファラ在日ジブチ大使(在日アフリカ外交団長)、メアリー・ドンデ・オディンガ在日ケニア大使、ンベラーンベラ・ルジュヌ在日カメルーン大使、また外務省からは河野雅治アフリカ局長、日向精義アフリカ開発会議担当大使ら4人。パネラーとして、国際連合大学、アジア経済研究所、JICA、NGO、そして東京大学などの研究者や実務家に加わり、3セッション、約5時間半にわたる討論を行いました。この会議は第3回アフリカ開発会議(TICADⅢ)の成功裏を受けて開催されたもので、アフリカについて本学が国際会議を主催したのは初めての事です。



秋光 純教授「マチアス賞」受賞

2003年5月25日(日)～30日(金)の期間、ブラジル・リオデジャネイロで開催された国際会議「Materials and Mechanisms of Superconductivity and High Temperature Superconductors」において、理工学部物理学 秋光純教授が「Bernd T. Matthias Prize(マチアス賞)」を受賞しました。この賞は、革新的な超伝導体を発見した人に贈られるもので、受賞理由は「 MgB_2 (ニホウ化マグネシウム)およびその他の超伝導体の発見」。授賞式後、秋光教授が「A long way to find the high- T_c superconductivity」と題した講演を行い、発見までの経緯を語るユーモアたっぷりの内容で、参加者から好評を博しました。会議自体も「 MgB_2 」を中心テーマとして進められました。

2003年度 青山学院学術褒賞

2003年度青山学院学術褒賞の受賞者が決まりました。

- 文学部史学科 教授 伊藤 定良
「ドイツの長い一世紀 ドイツ人・ポーランド人・ユダヤ人」
- 理工学部機械創造工学科 教授 岡田 昌志
水-有機混合体を利用する氷蓄熱の基礎研究
- 理工学部 理工学部講師 武士 侯貞助
省エネルギーカーの高性能化と教育への適用
- 国際マネジメント研究科 教授 高森 寛
「現代ファイナンスの基礎理論」

硬式野球部 東都大学秋季リーグ戦で8季ぶりに優勝



半田学長(当時)に優勝のあいさつ。8季ぶりに優勝旗が本学に。

2003年10月24日(金)、東都大学野球秋季リーグ戦において、本学の8季ぶり9回目の優勝が決定しました。

「優勝する力を持っていないながらも、いままで悔しい思いをしてきましたから、喜びは大きいですね。目標としていた優勝で秋季リーグを終えることができたのは、春季リーグでの敗戦があったからだと思います。負けたことで自分たちのダメな部分が見え、その反省が生かされたのではないのでしょうか。2・3年生を中心とした若いチームですから、2004年のシーズンも大丈夫でしょう。期待に応えられるだけの選手がそろっています。ただし、過信は禁物です」とは、主将としてチームを引っ張ってきた矢尾選手のコメント。



経済学部経済学科4年
主将 矢尾 倫紀 君

大活躍の頼れるエース山岸投手は「春は最終節で優勝を逃し悔しい思いをしました。その悔しさを晴らせてうれしいです。各大学との1回戦での登板が多く、緊張しながらも初戦で勝っていい雰囲気がつくれるように心がけました。2004年は最上級生としてチームを引っ張る立場になりますが、最上級生がしっかりやっていると見れば、下級生はついてくるはずと思って頑張ります」

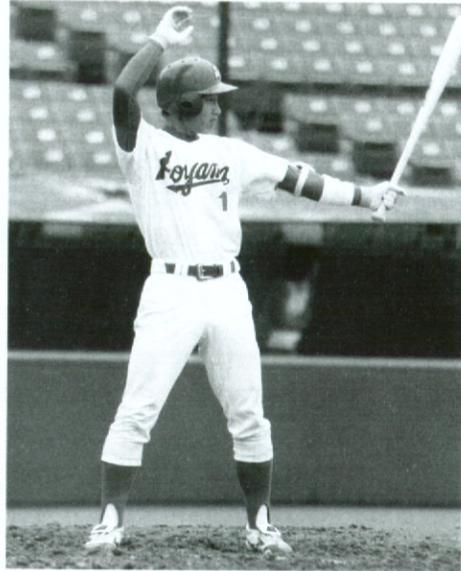


文学部史学科3年
山岸 稜 君

2004年も硬式野球部の活躍が期待できそうです。



負ければ相手の優勝が決まる日大との天王山決戦を完封で制し、現役最多勝をマークするなど大車輪の活躍を見せた山岸投手。ナインからの信頼も厚い。(写真提供:体育会広報愛好会 青山スポーツ)



主将としてチームを引っ張ってきた矢尾選手。投手陣の頑張りに応えたいと、打撃に守備に大活躍。今後は本田技研工業(株)への入社が決まっており、社会人野球で東京ドームでの優勝を目指していくとのこと。(写真提供:体育会広報愛好会 青山スポーツ)

硬式野球部部長

本郷 茂 (経済学部教授)



私が部長に就任してから初めての優勝ですから、喜びもひとしおです。今年は負けたくない試合してほしいとだけ選手たちには言ったのですが、それ以上の結果を残してくれました。春のキャンプを見ていて監督やコーチの熱意と選手たちの気持ちが伝わってきましたから、絶対に優勝できると確信していました。授業のため「その瞬間」に居合わせることができなかったのが心残り。次の春季リーグ戦は神宮球場にて自力で優勝を飾り、その喜びを分かち合いたいと思っています。

硬式野球部監督

河原井 正雄

あと少しのところまで優勝できなかったシーズンが続いていたので、うれしいです。また、4年生に優勝を経験させることができほっとしています。春季リーグでは打撃は良くてもムダな点を与えたりでちぐはぐなところがありましたが、秋季はバッテリーを中心とした守りが良かったことが結果につながりました。



硬式野球部コーチ

善波 厚司



優勝という結果はやはりうれしいですね。ただコーチという立場からすると、守備や大事な場面での集中力など、秋季に向けて練習してきたことが出せなかったことに目がいってしまいます。こうした課題をクリアして、来季のリーグ戦は自分たちの野球をして優勝することを目指して頑張っていきたいと思っています。

空手道部 諸岡 奈央さん 史上初「全日本学生選手権」4連覇

2003年7月13日(日)、日本武道館で開催された「第47回全日本学生空手道選手権大会」女子(形の部)において、空手道部諸岡奈央さん(経済学部経済学科4年)が優勝。大会史上初となる4連覇の偉業を成し遂げました。

大学4年間を通して学生女王の座を守り続けた諸岡さんは、アジア選手権や世界学生選手権でメダルを獲得するなど、世界大会でも活躍。身長150cmの小柄な身体から繰り出されるスピードとキレのある形が何よりの持ち味です。今大会では4連覇というプレッシャーもあったそうですが、見事快挙を達成した諸岡さんに勝因をうかがってみました。

「出場選手のレベルが高かった今大会で優勝できたのは、私がいちばん『勝ちたい!』という気持ちが強かったからではないでしょうか。高校最後



のインターハイで準優勝に終わり、その悔しさをバネに“勢い”で優勝できたのが大学1年生の時。その後、2年、3年と勝利へのこだわりを忘れず“常に挑戦し続けてきたことが”、4連覇達成の最大の要因だと思います。やはり、試合には負けたくないので、人よりたくさん練習をするように心がけています。大会直前になると1日12時間の練習になることもあります。その成果が目にも表れ、気迫のこもった演武ができたのだと思います。」

試合や練習中は鋭い格闘家の目を見せる諸岡さんですが、普段着の彼女は笑顔が似合うおしゃれな女子大生……形のキレだけではなく、オンとオフの切り替えも「お見事!」です。



写真提供:体育会広報愛好会 青山スポーツ(2点とも)

中川 恵理子さんが公認会計士2次試験に現役合格



経営学部経営学科3年
中川 恵理子さん

2003年10月6日(月)、金融庁から平成15年の公認会計士国家試験第2次試験の合格者が発表され、経営学部3年の中川恵理子さんが、現役で合格しました。今回の試験の受験者数は14,978人、合格者1,262人といずれも過去最高を記録しましたが、合格率は8.4%と昨年より0.2%下がっています。この国家試験が“狭き門”であることに変わりはありません。

「最初はこんなに合格することが難しい試験だとは知らなかったんです。そう言って笑う中川さんが公認会計士という職業を知ったのは青山学院高等部時代のこと。大学では経営学部に進学しようと決心した時でした。

「両親から大学卒業後は自立するように言われていたので、自分がどういう職業を目指すべきかを、大学のパンフレットなどを読みながら考えて

いました。まず会計士という言葉のイメージから関心を持ったのですが、調べてみると待遇面でも魅力的だということがわかったんです。そこで、さっそく大学入学直後から国家試験対策の通信教育をはじめました。2年生の途中から専門学校とのダブルスクールになりましたが、1年生の時は大学での友だちを作りたいから、できるだけ学生生活を楽もうと思っていました。でも、勉強時間を確保するためサークルに入るのは我慢しました」

ハードな試験勉強を乗り切るためには、明確な目的意識を持つことが何よりも大切だと言う中川さん。通っていた専門学校では、自分で学費を稼いでいる社会人も学んでおり、「学生の甘えを捨てて、真剣に取り組まなければ合格できない」と痛感させられたそうです。

「試験直前の時期は、3日間に一度しか外出しなかったこともありました。実はその一度きりの外出も勉強に必要な文具を買いに行くため(笑)。難関の国家試験だということはわかっていましたから、合格発表まではドキドキしていました。自分としてはベストを尽くしたので、たとえ不合格だったとしても、悔いは残らなかったと思います」

国際政治経済学部 勝瀬 充啓君 「獨協賞」佳作入選

2003年10月22日(水)、国際政治経済学部2年勝瀬充啓さんが、学校法人獨協学園創立120周年記念懸賞論文「獨協賞」(大学生部門)において、佳作に入選しました。論文のテーマは「日本は国際紛争にどうかかわるべきか」。勝瀬さんに入選の喜びの声を聞きました。

「以前から文章を書くことが好きだったので、自分の文章能力を測る良い機会だと思って応募しました。でも、時間的余裕がない中での執筆でしたから入選は自分でも意外でした。今回の入選を励みに、将来は文章を書く仕事に携わりたいと思っています」

「第19回センシングフォーラム」発表論文で南雲 和幸さんが「研究・技術奨励賞」を受賞

2002年9月17日(火)・18日(水)、慶應義塾大学で開催された社団法人計測自動制御学会主催の「第19回センシングフォーラム」において、大学院理工学研究科電気電子工学専攻 南雲和幸さんが「顔面熱画像による一過性覚醒水準の評価」と題する研究論文を発表。その論文が計測の新しい分野を切り開く優れた研究と同学会計測部門より認定され、2003年9月に「研究・技術奨励賞」を受賞しました。

2004年度学事暦

前期	4月1日(木)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断 (10日(土)まで) ※詳細は、「学年初頭行事」等で確認してください。
	4月3日(土)	入学式(学部・大学院)
	4月12日(月)	前期授業開始、新入生歓迎礼拝(相模原) イースター礼拝(青山・相模原)
	4月13日(火)	新入生歓迎礼拝(第二部)、イースター礼拝(第二部)
	4月20日(火)	履修登録最終日(青山屋間部)
	4月21日(水)	履修登録最終日(青山第二部、相模原)
	4月30日(金)	アドバイザー・グループ・デー(全キャンパス休講) (5月1日(土)まで)
	5月24日(月)	前期チャペル・ウィーク(29日(土)まで)
	7月16日(金)	補講日(17日(土)まで)
	7月20日(火)	前期定期試験期間(31日(土)まで)
	8月1日(日)	清里サマー・カレッジ(8月3日(火)まで)
	8月2日(月)	夏期休業期間(9月25日(土)まで)
	9月25日(土)	大学院学位授与式
	9月30日(木)	9月卒業生学位授与式



後期	9月27日(月)	後期授業開始
	10月9日(土)	相模原祭(10日(日)まで) (9日(土)相模原キャンパス休講)
	10月18日(月)	後期チャペル・ウィーク(23日(土)まで)
	10月29日(金)	青山祭(11月2日(火)まで)(全キャンパス休講)
	11月9日(火)	創立記念礼拝(第二部)
	11月15日(月)	創立記念礼拝(青山・相模原)
	11月16日(火)	創立記念日(全キャンパス休講)
	11月26日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
	12月16日(木)	クリスマス礼拝(相模原)
	12月21日(火)	クリスマス礼拝(青山)
	12月24日(金)	冬期休業期間(1月8日(土)まで)
	1月11日(火)	後期授業再開
	1月14日(金)	大学入試センター試験準備日 (大学入試センター試験実施キャンパスは休講)
	1月15日(土)	大学入試センター試験(16日(日)まで) (大学入試センター試験実施キャンパスは休講)
	1月19日(水)	補講日(20日(木)まで) (21日(金)・22日(土)は通常授業)
	1月24日(月)	後期定期試験期間(2月5日(土)まで)
2月5日(土)	第二部スプリング・カレッジ(6日(日)まで)	
3月26日(土)	卒業礼拝、学位授与式(学部・大学院)	

創立130周年「統一テーマ」「ロゴマーク」決定!

2003年11月14日(金)、青山キャンパス・ガウチャー記念礼拝堂で行われた創立129周年記念礼拝の後、創立130周年「統一テーマ」「ロゴマーク」入選者への表彰式が開催されました。「統一テーマ」は、最優秀作該当なしのため、選考委員会によって優秀作、佳作を統合した〈深まる伝統 拓く未来いま 青山学院130年〉に決定しました。なお、副題は120周年記念の時と同じテーマ〈小さな手と大きな手 ともに祈り ともに学ぶ〉を採用しました。「ロゴマーク」は最優秀作の国際政治経済学部国際経営学科4年上野勝義君の作品。いずれも130周年記念ポスター、パンフレット等で使用されます。



就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
就職ガイダンス	学部3年生	2月6日(金)	今回初めて参加の学生対象 就職の手引、進路カード配付
自己分析・エントリーシート講座		2月7日(土)	無料・講義のみ
SPI模擬試験		2月7日(土)	有料・当日申込
学内企業セミナー		2月	詳細は掲示板を参照
公務員試験対策講座	学部1・2年生	3月4日(木)~24日(水)	有料・事前申込(会場は青山キャンパス)

相模原キャンパス(理工学部生・理工学研究科生対象)

行事	対象学年	日程	備考
第2回面接対策講座	学部3年生	3月10日(水)	模擬面接の実施
第3回就職ガイダンス	院1年生		学科就職担当委員による学校推薦方法等の説明

※追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。また、就職の相談は随時受け付けていますので、来室し申し出てください。

2004年度学年初頭行事一覽

青山キャンパス

【文学部心理学科】4月1日(木)新2・3・4年生(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	時間	場所	行事
文学部 心理学科(昼間主)	13:00	930教室	プレースメント・テスト
文学部 心理学科(夜間主)	18:00		

【昼間部】4月5日(月)新4年生 4月6日(火)新3年生(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(1・2号館2階)	健康診断(7号館2階音楽室)
文学部 教育学科	12:30	ガウチャー記念 礼拝堂	13:00	1123教室	4月5日(月)、6日(火)、7日(水) 9:30~11:30 13:00~16:00 所要時間:約30分(混雑時)	4月2日(金)、5日(月)、 6日(火)、7日(水) 9:30~10:30 13:30~14:30 17:30~19:00
文学部 英米文学科	10:30		11:00	930教室		
文学部 フランス文学科	12:30		13:00	1134教室		
文学部 日本文学科	10:30		11:00	1173教室		
文学部 史学科	12:30		13:00	920教室		
文学部 心理学科(昼間主)	12:30	1143教室	13:00	1143教室		
経済学部	9:15	910教室	9:45	910教室		
法学部	9:15	4号館1階	9:45	420教室		
経営学部	12:45	910教室	13:15	910教室		
国際政治経済学部	12:45	6号館1階	13:15	621教室		

【第二部(夜間部)／文学部心理学科(夜間主)】4月5日(月)新3年生 4月6日(火)新4年生 4月7日(水)新2年生(各学年とも留年者を含む)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(1号館2階)	健康診断(7号館2階音楽室)
文学部 心理学科(夜間主)	17:30	1143教室	18:30	1143教室	4月5日(月)、6日(火)、7日(水) 16:30~19:30 所要時間:約30分(混雑時)	4月2日(金)、5日(月)、 6日(火)、7日(水) 9:30~10:30 13:30~14:30 17:30~19:00
文学部第二部 教育学科		7号館1階 学生ロビー		1135教室		
文学部第二部 英米文学科				1134教室		
経済学部第二部				621教室		
経営学部第二部				930教室		

●教務課からのお知らせ

- ※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。
- ※履修ガイダンスの所要時間は30分~60分程度です。
- ※その他の行事については、書類配布時に配布される「学年初頭行事」を参照してください。
- ※2004年度の編入学・転部・転学部・転学科生は「入学手続要項」と「学年初頭行事」を参照してください。

●学生部からのお知らせ 学生証更新について

- ※学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、各自で貼り直してください。
- ※大学院生(青山キャンパス)は、大学院事務室掲示板を参照してください。

●保健管理センターからのお知らせ 健康診断について(受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条)

- ※学年等により検査項目が異なります。
- 注意1:視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参してください。
- 注意2:女子はレントゲン検査のために、無地に近いTシャツを着用もしくは持参してください。
- 注意3:健康診断を受診できなかった場合、外部診療所へ行き自費(約4600円)で受診することになります。依頼書等がセンター窓口にあるので取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書は発行できません。(就職用・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等は必要です)
- 注意4:4年生は、受診前日までに検尿容器を7号館1階保健管理センターまで取りに来て採尿済み容器を持参してください。
- ※2004年度編入学・転部・再入学・転学部・転学科・科目等履修生・受入れ交換留学生は4月2日(金)は受診できません。
- ※学生健康診断について何か質問のある方は直接保健管理センター窓口もしくは03-3409-7896にて確認してください。

相模原キャンパス

4月1日(木)新2年生(法・経営)／新3・4年生(理工)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(E棟)	健康診断(D棟)
法学部2年生	10:00	E棟 1階廊下	10:30	E棟	11:30~16:00	4月1日(木)、2日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30
経営学部2年生	13:00		13:30			
理工学部3年生	9:30		10:00			
理工学部4年生	12:30		13:00			

4月2日(金)新2年生(文・経済・理工)／大学院(理工)

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(E棟)	健康診断(D棟)
文学部2年生 英文学科	9:30	E棟 1階廊下	10:00	E棟	11:30~16:00 (ただし、理工学部大学院1年生は 学生証の交付になります。)	4月1日(木)、2日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30
文学部2年生 フランス文学科	9:30		10:00			
文学部2年生 史学科	9:30		10:00			
文学部2年生 教育学科	13:30		14:00			
文学部2年生 日本文学科	13:30		14:00			
文学部2年生 心理学科(昼間主)注1)	13:30		14:00			
経済学部2年生	13:00		13:30			
理工学部2年生	10:00		10:30			
理工学部大学院1年生	10:30		11:00			
理工学部大学院2年生	13:30		14:00			

注1)文学部心理学科(昼間主)新2年生は、4月1日(木)青山キャンパスにおいてプレースメント・テストが行われます。

4月7日(水)新2年生(国際政治経済) 健康診断は4月1日、2日です。

学部・学科	書類配布	場所	履修ガイダンス	場所	学生証更新(E棟)	健康診断(D棟)
国際政治経済学部 注2)	9:30	E棟 1階廊下	10:00	E棟	11:30~13:30	4月1日(木)、2日(金) 9:00~10:30 13:30~16:30

注2)履修ガイダンス終了後、13:00よりITPテストが行われます。

- ※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。
- ※その他の行事については、書類配布時に配布される「学年初頭行事」を参照してください。
- ※履修ガイダンスの所要時間は60分~80分です。場所等詳細は「学年初頭行事」を参照してください。
- ※健康診断の詳細は、学内情報端末、学部掲示板、または「学年初頭行事」を参照してください。

- ※2年次編入学・転学部・転学科生も上記行事に参加してください。なお、健康診断は4月5日・6日のいずれかで受診してください。
- ※健康診断を受診できなかった場合は外部(自費で約4000円)で受診することになり、証明書などの発行はできません。
- ※1年次留年生の学生証裏面シール更新は、4月5日(月)以降窓口時間帯に学生生活グループ(B棟1階)で行います。

2003年度 父母懇談会開催報告

本学では、大学後援会事業の一環として、在学生のご父母に対する大学の近況、学業および就職状況等についての全体説明や個別面談を通して、ご父母との緊密なコミュニケーションをはかり、ご父母の大学へのご意見を大学運営に反映することを目的として、父母懇談会を実施しています。



2003年度父母懇談会は、5月24日(土)の法学部首都圏父母懇談会に始まり、西日本22地区において順次実施されました。また「東日本と西日本の隔年開催ではなく、毎年開催してほしい」というご父母の強い要望に応じて、東日本3地区において実施されました。本年度も多くのご父母にご参加いただき、全日程を無事に終了することができました。

2003年度地区父母懇談会実施報告

午前中の全体説明会では、大学の近況、学業成績と就職関係の内容を中心に報告がありました。大学の近況については大学代表者から、また、学業成績・就職・学生生活については各担当者から説明・報告を行いました。

昼食時に行われる懇談会では、地元の校友の方にもご参加いただき、ご父母との懇親を深めました。

午後からは、大学全般・学業・就職・学生生活関係等の個別面談を行い、さまざまなご質問、ご要望を承りました。

本年度は、新企画として大学代表者による講演を西日本地区にて開催、東日本地区では昨年に引き続き、公開講演会を同日に開催しました。各地区において、メモを取りながら熱心に講演に聞き入るご父母の姿がとても印象的でした。

(庶務部学長事務室 及川麗子 記)

地区父母懇談会 ※全学部・全学科のご父母対象

対象府県	開催地	開催日
滋賀県	京都市	7月12日(土)
京都府	京都市	7月12日(土)
大阪府	大阪市	8月10日(日)
兵庫県	神戸市	8月9日(土)
奈良県	奈良市	7月13日(日)
和歌山県	和歌山市	8月9日(土)
鳥取県	鳥取市	9月14日(日)
島根県	松江市	9月13日(土)
岡山県	岡山市	7月27日(日)
広島県	広島市	7月26日(土)
山口県	周南市	8月3日(日)
徳島県	徳島市	8月23日(土)
香川県	高松市	8月31日(日)
愛媛県	松山市	8月30日(土)
高知県	高知市	8月24日(日)
福岡県	福岡市	8月2日(土)
佐賀県	佐賀市	8月24日(日)
長崎県	長崎市	8月23日(土)
熊本県	熊本市	8月30日(土)
大分県	大分市	7月21日(祝)
宮崎県	宮崎市	7月20日(日)
鹿児島県	鹿児島市	8月31日(日)
沖縄県	那覇市	9月6日(土)
茨城県	水戸市	9月20日(土)
静岡県	静岡市	9月23日(祝)
新潟県	新潟市	10月13日(祝)

首都圏父母懇談会 ※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいの2・3年次生のご父母を対象

学部	開催日
法学部	5月24日(土)
国際政治経済学部	5月31日(土)
経済学部・経済学部第二部	6月14日(土)
経営学部・経営学部第二部	6月21日(土)
文学部・文学部第二部	6月28日(土)
理工学部	10月11日(土)

Club & Circle Information 問い合わせ先 学生部学生課 Tel 03-3409-8111(内線12163, 12164)

2003年度主要活動予定 (2004年1月~3月)

*主な体育連合会・文化連合会の活動予定。
大会等の日程は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

アイススケート部フィギュア部門 日本学生氷上選手権大会(1月)

航空部 全日本学生グライダー競技選手権大会(3月)

硬式庭球部 関東学生新進テニストーナメント(3月)

卓球部 東京選手権大会(2月)

馬術部 関東学生馬術新人競技大会(3月)

2003年度活動報告 (2003年10月~12月)

居合道部 第36回東日本学生居合道大会 団体優勝 個人準優勝

硬式野球部 東都大学秋季リーグ戦優勝

空手道部 関東学生選手権 女子団体形の部優勝 男子団体形の部3位

女子硬式庭球部 関東学生選手権大会 シングルス準優勝 ダブルス準優勝

水泳部 関東学生800m自由形優勝 100m・200m平泳ぎ優勝

男子ソフトテニス部 東日本学生選手権大会 3位

女子ソフトテニス部 東日本学生大学対抗戦 団体3位
全日本学生ソフトテニス選手権大会 ダブルス優勝 シングルス優勝

女子卓球部 関東学生秋季卓球リーグ戦 二部優勝 一部復帰

軟式野球部 東都大学秋季リーグ戦 優勝

女子バドミントン部 関東学生秋季リーグ戦 優勝
東日本学生バドミントン選手権大会 ダブルス優勝
全日本学生バドミントン選手権大会 ダブルス3位

女子バレー部 東日本インカレ 3位

レスリング部 全日本学生選手権大会 グレコローマン74kg 3位・48kg 3位

News Index 2003.10~11

WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2003年10月上旬~11月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

03年10月

- 理工学部電気電子工学科 和田光司助手が「平成14年電気学会C部門研究会優秀論文発表賞」を受賞
- 第3回法科大学院説明会のお知らせ
- WTO研究会のお知らせ
- ボストン大学名誉教授 ロドルフォ・カルドーナ博士講演会のお知らせ
- 理工学部(数学教室) 川村友美助手が「2003年度日本数学会賞建部賢弘奨励賞」を受賞
- 理工学部化学科 重里有三教授の研究グループが耐熱性1100度のガラス電極を共同開発
- 後期チャペル・ウィークのお知らせ
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」天気中継放映
- 陸上部の箱根駅伝に向けた奮闘記が「NNNニュースプラス1」のスポーツコーナーで放映
- NHKニュース「おはよう日本」で法学部のゼミ風景が放映される

03年11月

- 大学院理工学研究科生 沖本浩二さんがC&C振興財団の助成者に選出
 - 2003年度「青山学院国際交流の集い」
 - フランス文学会講演会開催のお知らせ
 - 人権環境アセスメント公開シンポジウム開催のお知らせ
 - 相模原キャンパス開学記念行事「沢 知恵コンサート」のお知らせ
 - クリスマス・ツリー点火祭のお知らせ
 - 「第52回チャールズ杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会(本選)」開催
- WEEKLY AOYAMAアドレス <http://www.aoyama.ac.jp/agnnews/weekly.html>

こころの成長と自己実現

平山 栄治
文学部心理学科助教授

—心理療法によって育まれる個人のポテンシャル—



1955年生まれ、青山学院大学卒。九州大学大学院教育学研究科博士後期課程退学。九州大学助手、臨床現場等を経て、現在、青山学院大学文学部心理学科助教授、大学院文学研究科附属心理相談室長。教育学博士（論教博、九大）。1999年日本心理臨床学会奨励賞。専門は臨床心理学、精神分析学。

1. こころの健康と不健康という区分の意義と限界

こころの健康と不健康（適応と不適応）という区分・分類は重要です。病態水準（不安と防衛の人格構造の水準）の査定は、症候学的な精神障害分類（DSM-IVなど）、心理療法的予測と並んで受理面接の重要な目的のひとつです。しかし、健康と不健康という区分は問題をはらんでいるのも事実でしょう。病気でないことが優れた精神健康を意味するのか——健康には非常に大きな幅があります。精神症状や心理的不適応がなければ健康なのか——からだのレベルに追いやられたこころの病気があります（転換ヒステリー、心気症、心身症）。本人が発症していなければ健康といえるのか——家族や集団の他の成員に負わされた病気がスケープゴート現象があります。虐待には、心的葛藤や問題を次の世代に次々と代送りさせていく世代間伝達が生じれば観察されます。

2. 内面を恐れる諸現象——適応なのか統合なのか

人は、健康であるかないかにかかわらず、誰でも自己の内面やこころの真実を知ることへの恐れをもっています。典型的な現象のひとつは健康への逃避です。心理療法に対して非現実的で魔術的な効果を期待しているクライエント（来談者）の場合、いざ始めてみると、今まで見ないようにしていた自己の内面の醜いものや不安を垣間見る恐れのおかげで、当初の症状が再抑圧されてしまい、治療中断に至るのです。自己の防衛的要請が勝り、症状の再抑圧を選んだのです。「催眠療法をして症状をとってください」というようなクライエントです。

もうひとつは、集団内にある種の不安や強烈な感情が潜在していて、大元の対象に対してそうした情緒を体験していることが不安を引き起こすので、それが抑圧されるとき、まったく無関係の他の成員——他の多くの成員と何か違ったものを持っている成員——をいけにえ（scapegoat）にすることでそうした情緒のはけ口に使用する現象です。ナチスドイツによるホロコーストが有名ですが、程度はまったく違うけれど、学校でのいじめも、動いている心的メカニズム自体は同様です。怒りの対象の置き換えや罪悪感の投影に加えて、何らかの正当化や合理化が行われていて、当事者はそ

のことに全く気づかないのが特徴です。家庭でも、親が子どもを叱った後に、叱られた子ども同士で激しい喧嘩が生じる場合、同様の現象が生じている可能性があります。

3. 健康と不健康の並存という真実

筆者は20年間ほど、幅広い臨床現場に臨床心理士として勤務しつつ研究を行ってきました。本学教員となる以前の4つの大学での学生相談、中学校・高校でのスクールカウンセラー、小学生を対象とする遊戯療法や心理教育相談、そして、精神病院・クリニックでの10年間にわたる統合失調症、躁うつ病、物質依存、人格障害、神経症の心理面接などです。

神経症水準や人格障害水準のクライエントとの面接を通して、こころの不安を一緒になって受け止めていくなかで、私自身が激しくこころを揺さぶられたり、呆然としたり、体調を崩すこともあります。しかし、クライエントがかつて深く凍結していた自己の経験に触れ、情緒の嵐を生きなおいし、内的世界を統合し、息を吹き返す場に立ち会えるのは、心理療法家の特権といってよいでしょう。

精神病圏では、もっとも激烈な破滅—解体不安（自分がバラバラになってしまう）や迫害不安（迫害妄想）が基礎にあり、防衛と現実吟味の強化が図られます。しかし、ときに自らの激烈な不安を主体的に受け止めることさえあります。精神病圏のある女性入院患者は、私と週2日の心理療法を続けていました。彼女は、私との心理療法セッションの中では、まるで神経症者のような印象となっていました。ところが、医局の窓を通して、あるいは病棟で見かけるときの彼女には、特有の非疎通感が持続していることに驚いた私は、精神病圏の患者が相手と場所を選んでいることを知りました。彼女は、いくつかのセッションで、「胸が張り裂けてしまいそう。でも、看護師や先生たちが私を精神病と思うから、必死に考えないようにしている」と語るようになりました。私は、彼女が私との関係でもそれを恐れていることを取り上げ、彼女に、非常に厳密で限定的な枠組みを提示して、「その中で納められるなら」と伝えました。彼女は、その枠組みの中で、己を隠すことを止めました。私の

目の前で、凄まじい、自分がバラバラになってしまう不安が出現し、その中で彼女は助けを求めていました。私は、「手ならつかんでいい」（私は、彼女が自分で自分を支えられることに気づくために最低限必要な脇役・道具であろうとしました）と言って自分の手を差し伸べました。私の両手を掴んだまま、彼女は椅子から立ったり座ったりしながら究極的混乱の只中にいました。彼女と私は凄まじい、いつ終わるとも知れない嵐をしのぎました。異様な神経の急激な集中が私を襲い、私の背骨と脊髄は鉄の棒のようでした。彼女は、私が提示した枠組みを守りました。後日、「あのとき、私は本当に楽だった」と言っていて彼女は微笑みました。私はこのことを誰にも言いませんでした（とても言葉にできませんでした）。もし万が一、あのときにスタッフが入室していたら、枠組みが壊れてしまい、彼女が主体的にその恐ろしい不安に直面しているとはとても信じられず（彼女にも）、その結果、彼女が恐れていた通りの反応と対応をスタッフに引き起こしてしまったのではないのでしょうか。彼女はこの体験によって精神病水準の不安を自ら和らげました。紆余曲折を経て彼女は退院していきました。もちろん、医療スタッフによる薬物療法と入院治療の賜物です。そして、彼女はきっと元々相当の自我水準の持ち主だったのでしょ。私が言いたいのはただ一点、精神病圏の患者であっても、はるかに恐ろしい自己の不安を主体的に受け止めることがあるという事実です。

4. 結語

こころの健康と不健康は、一人の人間の中に並存しています。ただ、その比率は、人格の病態水準によって、決定的に異なります。こころの健康と不健康の区分や査定は非常に重要です。しかし、こころの統合や成長は、もっと流動的かつ複合的な産物です。全き健康と全き不健康という発想は、その発想自体が不健康であり、こころの成長を止めてしまいやすいです。深く自己の人間性を生きようとするとき、それはきれいごとでは済まされません。自己の不安に触れることで、何かが開かれ、統合されるためには、深く傾聴してくれる存在、受け止めてくれる存在が決定的に重要です。

春期休業中の窓口案内 対象期間 2/6~3/31

部署	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
教務課	2/27~3/31	月~金	9:00~19:00	2/6~2/26は窓口停止
		土	9:00~19:00(12:00~15:30は窓口停止)	4/1より平常通り
教職課程課	3/9~3/31	月~土	9:00~16:00(土曜日は11:30まで)	3/9は19:00まで 4/1より平常通り
		月~金	9:00~19:00(15:00~16:00は窓口停止)	2/6~2/26、3/27は窓口停止
学生部	2/27~3/31	月~金	9:00~19:00(11:30~16:00は窓口停止)	4/1より平常通り
		土	9:00~19:00(11:30~16:00は窓口停止)	4/1より平常通り
就職部	2/6まで 2/20~25、2/27~	月~土	9:00~17:00(火・金は19:00まで、土は12:00まで)	窓口停止時間16:00~17:00 (土は13:00まで資料室閉室)
		月~土	9:00~19:00(土は12:00まで)	
図書館	2/27~3/27	月~土	9:00~19:00	貸出期限を厳守してください。休業中の本の返却は正面入口脇のブックポストに入れてください 3/29~31はシステム入替のため休館 4/1、2は9:00~19:00、4/3より平常通り
大学院事務室	3/9~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ13:00まで)	2/6~3/8は入学試験業務のため窓口停止 修士論文最終試験日は平常通り
専門職大学院事務室	国際マネジメント研究科については5号館1階の事務室の掲示で確認してください			
広報入試センター	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	窓口停止時間11:30~12:30
情報科学研究センター	2/6~3/31	月~土	9:00~19:00(2月は土のみ17:00まで)	システム更新作業および年度未処理の為、施設およびネットワーク利用停止期間があります ※コンピュータ利用日程は掲示板参照
国際交流センター	3/1~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	2/6~2/28は窓口停止
外国語ラボラトリー	3/1~3/31	火・金	9:00~19:00	2/6~2/28は窓口停止
学生相談センター	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ11:30まで)	火・金の夜間開室は4/12より 昼休み11:30~12:30
保健管理センター	2/6~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	4/12より平常通り
宗教センター	2/6	金	9:00~19:00	
	2/7~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00)	

★2月7日(土)~2月26日(木)の期間は、2004年度一般入学試験のため青山キャンパスへの入構が制限されます。上記期間に入構の場合は警備員に用件を告げ許可を得た上で、西門または東門から入構してください。

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
学生支援ユニット	スチューデントセンター	2/27~3/31	月~土	9:00~16:00(土曜のみ11:30まで) 窓口停止時間11:30~12:30	2/6~2/26は窓口停止 4/1より平常通り ※ 2/6、16、17は追試験業務のみ窓口事務をおこなう
	学務グループ※				
	進路グループ				
	国際交流グループ				
	学生生活グループ				
教育・学習支援ユニット	健康管理グループ(保健管理センター事務室)	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで) 窓口停止時間11:30~12:30	毎月第4水曜日はメンテナンスのため、13:30よりPC教室利用不可。年度未処理およびシステム更新に伴う利用案内は別途お知らせします 次の期間は閉館 3/1~4(蔵書点検)、3/29~31(システム更新) 卒業・修了予定者の図書返却期限=2/27 4/12より平常通り
	健康管理グループ(学生相談センター事務室)				
	授業支援グループ				
	情報教育支援グループ(情報科学研究センター)				
研究支援ユニット	図書グループ(図書館)	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	4/12より平常通り
	メディアライブラリーグループ(外国語ラボラトリー)	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	4/12より平常通り
企画・渉外・庶務ユニット	研究支援グループ	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	
	企画グループ				
経理・施設ユニット	地域・渉外交流グループ	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	
	庶務グループ				
宗教センター	経理・施設グループ	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	4/12より平常通り
宗教センター	宗教センター	2/6~3/31	月~土	9:00~17:00(土曜のみ13:00まで)	4/12より平常通り

詳細は各掲示版をご覧ください。

成績通知について

2003年度の成績通知書は、卒業決定者以外の学生は3月中旬に保証人住所宛へ郵送されます(除大学院)。卒業・修了決定者については、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

また、在学生は2004年4月のオリエンテーション開始日より学内情報端末から各自成績通知書を出し、確認してください。(除大学院博士後期課程)

2003年度学位授与式・卒業礼拝

2003年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記のとおり「学位授与式」が挙行されます。これに先立ち、3月27日(土)10:00~11:00にガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)において、卒業礼拝が挙行されます。

	学部	大学院
期日	3月27日(土)	3月27日(土)
時間	13:00~	16:00~
場所	青山学院記念館(青山キャンパス)	ガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)

卒業・進級に関するお知らせ

対象	日程	時間	場所
卒業・修了決定者氏名発表			
昼間部(除理工学部)	3/9(火)	9:30	青山キャンパス各学部掲示版
第二部(夜間部)	3/9(火)	9:30	青山キャンパス各学部掲示版
理工学部	3/9(火)	9:30	相模原キャンパス理工学部掲示版
理工学研究科			相模原キャンパスN棟理工学研究科掲示版
大学院(除理工学研究科)	研究科により発表日が異なるので大学院事務室および専門職大学院事務室掲示版で確認してください		
卒業見込決定者氏名発表(理工学部のみ)			
理工学部	3/10(水)	10:00	相模原キャンパス理工学部掲示版
進級決定者氏名発表			
相模原キャンパス在学生(除理工学部)	3/9(火)	9:30	相模原キャンパス各学部掲示版
第二部2年生	3/9(火)	9:30	青山キャンパス各学部掲示版

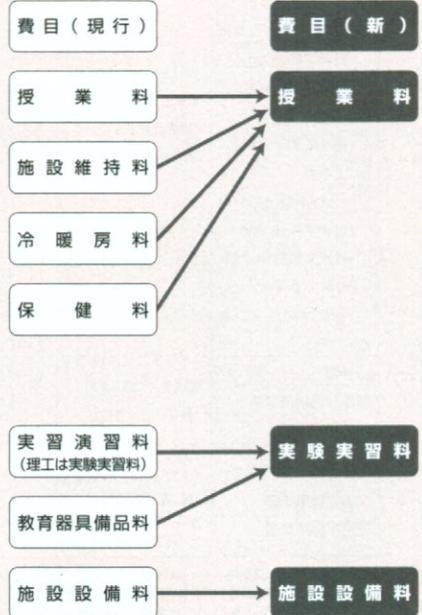
※電話による問い合わせには一切応じておりません。
※卒業年次生は、必ず2月27日(金)までに図書を図書館へ返却してください。

大学・大学院学費改定について

2004年度より、下記に示すとおり学費の費目を統合いたします。あわせて、学部生につきましては物価上昇率・教育研究向上率から算定される学費漸増率を引き上げることといたしました。これにより入学時にお知らせしていましたが2004年度以降の納入予定額が減額となります。

2004年度以降の学費 ※()の金額は入学手続き時にお知らせした学費です。 単位:円

学部・研究科	学年	2003年度入学生	2002年度入学生	2001年度入学生
文学部(心理学を除く) 経済学部・法学部・経営学部	2年	915,000 (918,400)		
	3年	846,000 (854,400)	835,000 (838,400)	
	4年	857,000 (871,400)	846,000 (854,400)	835,000 (838,400)
文学部(心理学)	2年	945,000 (948,400)		
	3年	876,000 (884,400)	865,000 (868,400)	
	4年	887,000 (901,400)	876,000 (884,400)	865,000 (868,400)
国際政治経済学部	2年	925,000 (928,400)		
	3年	856,000 (864,400)	845,000 (848,400)	
	4年	867,000 (881,400)	856,000 (864,400)	845,000 (848,400)
理工学部	2年	1,371,000 (1,377,400)		
	3年	1,288,000 (1,301,400)	1,271,000 (1,277,400)	
	4年	1,304,000 (1,325,400)	1,288,000 (1,301,400)	1,271,000 (1,277,400)
第二部(全学部)	2年	506,000 (507,800)		
	3年	513,000 (517,800)	506,000 (507,800)	
	4年	520,000 (527,800)	513,000 (517,800)	506,000 (507,800)
文学研究科(心理学専攻を除く)・ 経済学研究科・法学研究科/博前・博後	2年	575,000 (575,900)		
	3年	525,000 (525,900)	525,000 (525,900)	
	2年	611,000 (612,400)		
文学研究科心理学専攻/博前・博後	3年	561,000 (562,400)	561,000 (562,400)	
	2年	591,000 (592,400)		
経営学研究科/博前・博後	3年	541,000 (542,400)	525,000 (525,900)	
	5年	495,000 (495,900)		
国際政治経済学研究科/一貫制博士(2000年度入学生)	2年	715,000 (716,400)		
	3年	615,000 (616,400)	615,000 (616,400)	
国際政治経済学研究科/修士・博後	2年	715,000 (716,400)		
国際マネジメント研究科2年制コース	2年	1,026,000 (1,026,400)		
国際マネジメント研究科3年制コース	2年	806,000 (806,400)	(3年次は2年次と同額)	
国際マネジメント研究科/博後	2年	715,000 (716,400)		
	3年	615,000 (616,400)	615,000 (616,400)	
理工学研究科/博前	2年	926,000 (926,400)		
理工学研究科/博後	2年	956,000 (956,400)		
	3年	856,000 (856,400)	856,000 (856,400)	



注1 諸会費(学生会費・後援会費・学会費・第二部卒業記念積立金)については左記金額に含んでおりません。諸会費を含めた実際の納入金額は下記2004年度学費一覧表をご覧ください。

注2 編入学・転部・転学部・転学科・再入学・留年等は左記一覧表には含んでおりません。

注3 博前は博士前期課程、博後は博士後期課程

大学・大学院学費納付について

(大学院の学費納付の期限等については大学院要覧を参照してください。)

〈学部生〉

1. 学費振込依頼書発送・納付期限等について

- 前期振込依頼書発送予定日
4月6日(火)【納付期限4月23日(金)】
後期振込依頼書発送予定日
9月7日(火)【納付期限10月1日(金)】
- 学費振込依頼書は上記の日程で保証人宛(申し出のあった場合は学生宛)に送付いたします。
- 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料が無料です。その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。
※ご注意 自動振込機による振込は絶対にしないでください。
(学費納入の確認が不可能なため。)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- 住所変更(保証人・本人)
→学生部厚生課・学生生活グループ
- 学費の延納・分納を希望する場合
→学生部学生課・学生生活グループ
- 休学・退学を希望する場合
→昼間部(3・4年)および第二部は学務部教務課(青山)
→昼間部(1・2年、理工学部全学年)は学務グループ(相模原)
- 学費振込依頼書を紛失した場合→本部経理部出納課

青山キャンパス 03-3409-8111(代表)

相模原キャンパス学務グループ 042-759-6003(ダイヤルイン)

相模原キャンパス学生生活グループ 042-759-6004(ダイヤルイン)

3. 編入学・転部・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、経理部出納課にお問い合わせください。

4. 4年次で留年した学生の学費振込依頼書発送は5月中旬になります。【納付期限6月4日(金)】

5. 年間学費を一括して納付することもできます。希望される場合は学生部学生課・学生生活グループに申し出てください。

6. 教育ローンについて

本学では銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第21号(3~4月号)に掲載いたします。

2004年度 大学学費一覧表(入学年度別) 単位:円

学部・学科	年度	2003年度入学生		2002年度入学生		2001年度入学生	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼間部	教育学科	555,000		475,000		475,000	
	英米文学科	554,200		474,200		474,200	
	フランス文学科	555,000		475,000		475,000	
	日本文学科	555,000		475,000		475,000	
	史学科	556,000	375,000	476,000	375,000	476,000	375,000
	心理学科	587,000		507,000		507,000	
	経済学部	556,000		476,000		476,000	
	法学部	557,000		477,000		477,000	
	経営学部	556,000		476,000		476,000	
	国際政治経済学部	567,000		487,000		487,000	
理工学部	846,500	540,500	746,500	540,500	746,500	540,500	
第三部(夜間部)	教育学科	282,500		282,500		282,500	
	英米文学科	281,700		281,700		281,700	
	経済学部	283,500	235,500	283,500	235,500	283,500	235,500
	経営学部	283,500		283,500		283,500	

上記学費一覧表は、編入学・転部・転学部・転学科・再入学・留年等は除きます。問い合わせ先:本部経理部出納課 03-3409-6479(直通)

2004年度 大学院学費一覧表(入学年度別) 単位:円

研究科課程	年度	2003年度入学生		2002年度入学生	
		前期	後期	前期	後期
文学(教育) 博前・博後	前期	326,500		276,500	
	後期				276,500
文学(英米) 博前・博後	前期	325,700		275,700	
	後期				275,700
文学(フランス文) 博前・博後	前期	326,500		276,500	
	後期				276,500
文学(日本文) 博前・博後	前期	326,500		276,500	
	後期				276,500
文学(史) 博前・博後	前期	327,500	257,500	277,500	257,500
	後期				277,500
文学(心理) 博前・博後	前期	364,500		314,500	
	後期				314,500
経済学 博前・博後	前期	327,500		277,500	
	後期				277,500
法学 博前・博後	前期	328,500		278,500	
	後期				278,500
経営学 博前・博後	前期	343,500		277,500	
	後期				277,500
国際政治経済学 一貫制博士 (2000年度入学生)	前期	263,500	242,500		
	後期				242,500
国際政治経済学 修士・博後	前期	468,500	257,500	368,500	257,500
	後期				257,500
国際マネジメント 2年制コース	前期	659,000	378,000		
	後期				378,000
国際マネジメント 3年制コース	前期	549,000	268,000		
	後期				268,000
国際マネジメント 博後	前期	468,500	257,500	368,500	257,500
	後期				257,500
理工学 博前	前期	563,000	373,000		
	後期				373,000
理工学 博後	前期	593,000		493,000	
	後期				493,000

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程

2004年度一般入学試験日程

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入手続締切日
理工学部 化学・生命科学科※ 機械創造工学科 経営システム工学科 物理・数理学科※ 電気電子工学科 情報テクノロジー学科	1/7(水)～1/26(月) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/10(火)	2/17(火)	2/24(火)
		2/11(水)		
		2/13(金)	2/20(金)	
		2/14(土)		
文学部 教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科 日本文学科(B方式) 史学科 心理学科昼間主コース 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学科(A方式) 心理学科夜間主コース	1/7(水)～1/30(金) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/15(日)	2/21(土)	3/1(月)
		2/17(火)	2/23(月)	3/1(月)
		2/18(水)	2/24(火)	3/2(火)
		2/19(木)	2/25(水)	3/3(水)
		2/26(木)	3/3(水)	3/10(水)
		2/19(木)に限ります		
経営学部	1/7(水)～1/30(金)	2/15(日)	2/21(土)	3/1(月)
法学部	郵送受付に限ります	2/17(火)	2/23(月)	3/1(月)
国際政治経済学部	(締切日消印有効)	2/18(水)	2/24(火)	3/2(火)
経済学部		2/19(木)	2/25(水)	3/3(水)
文学部第二部	郵送受付	2/26(木)	3/3(水)	3/10(水)
経済学部第二部	1/7(水)～2/13(金) (締切日消印有効)			
経営学部第二部	窓口受付(青山キャンパス) 2/19(木)に限ります			

※2004年4月、理工学部物理学科は「物理・数理学科」に、化学科は「化学・生命科学科」に改組します。
【学費納入方法】学費は所定期間内に一括納入を原則としますが、他大学を併願し延納を希望する場合は、入学申込金(入学金相当額)を納入し、残りの学費は延納の願い出により3月24日(水)までに納めることができます。

2005年度より「大学入試センター試験」を利用した入学試験を実施

本学は現高校2年生等が受験する2005年度より「大学入試センター試験」を利用した入学試験を実施します。実施するのは以下の学部・学科です。

- ・法学部(法学科)
 - ・国際政治経済学部(国際政治学科/国際経済学科)
 - ・理工学部(物理・数理学科/化学・生命科学科/電気電子工学科/機械創造工学科/経営システム工学科/情報テクノロジー学科)
- なお、入学試験の詳細につきましては、2004年6月以降に公表します。

高校1・2年生のための大学説明会開催報告

2003年11月9日(日)、青山キャンパスにおいて「高校1・2年生のための大学説明会」が開催されました。当日は、歓迎礼拝、保護者を対象とした大学ガイダンス、大学紹介・入試概要紹介、個別進学相談、リスニング試験体験などが行われ、本学への進学を希望する熱心な高校生とご父母1,585名が来場しました。



説明会場は熱心な来場者で満席



キャンパス見学風景



青山学院トップページ

青山学院ウェブサイトリニューアル

2003年12月1日(月)より青山学院ウェブサイトをリニューアルしました。それに先立ち、大学サイトは10月10日(金)にリニューアルされています。今回のリニューアルでは、従来からの目的別メニューに加え、対象者別メニューが設けられ、白を基調にデザインも一新されました。

青山学院→www.aoyamagakuin.jp/ 青山学院大学→www.aoyama.ac.jp/



青山学院大学トップページ

歴代院長とその時代



あべよしむね 阿部義宗

第6代院長(1933~1939年在任)

伯父である本多庸一(第2代院長)の創立した弘前教会で受洗し、1912(明治45)年に青山学院神学科卒業後、アメリカ・カナダに留学。1915(大正4)年、帰国した阿部は母校に招かれ、以来、24年間を青山学院と共に歩みました。教師として英語、社会学、神学を教えたほか、青山学院教会牧師、中学部部長、神学部部長を歴任。中学部部長時代には、第5代院長石坂正信と力を合わせて、関東大震災後の青山学院復興に奔走しました。第2次世界大戦前夜の暗い世相の中の1933(昭和8)年、第6代院長に就任し、積極的に各部の

充実を図っていききました。特に初等教育を重視し、青山学院緑岡小学校・幼稚園を開設。キリスト教主義による一貫教育の土台を築きました。1939(昭和14)年、日本メソジスト教会監督に選任され院長を退任しましたが、その後も理事・評議員として青山学院の経営に関わりました。また、1941(昭和16)年夏、日本キリスト教界を代表して渡米し、戦争回避に努力するなど、平和のために尽力しています。戦後は政治、社会、教育の各界で活躍、一牧師としての使命を全うし、1980(昭和55)年、その輝かしい生涯を終えました。



青山キャンパス風景(昭和7(1932)年)

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

スを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配付しています。なお、「Weekly AOYAMA」は2月より大学が入試期間となるため、隔週でニュースを更新いたします。(4月より通常どおり)

※保証人の方は、お手数ながら本誌を学生へ回付していただきますようお願いいたします。

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

AGU News on Web
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>
広報入試センター広報課 ● 2004年1月13日発行 ●